

平成 13 年度第 1 回「宇都宮市冒険活動運営協議会」議事録

日 時 平成 13 年 7 月 25 日 (水) 10 時 ~ 12 時
会 場 宇都宮市冒険活動センター 会議室
出席者 坂本 宏夫 委員 (市小学校長会)
中山 正孝 委員 (市中学校長会)
三村 正行 委員 (市 P T A 連合会)
益田 栄子 委員 (市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会)
渡辺美津子 委員 (市レクリエーション協会)
新村 尚 委員 (県キャンプ協会)
西 順一 委員 (宇都宮大学)
阿久津 孝 委員 (市森林組合)
古賀 延繁 委員 (市公民館運営審議会)
竹内 智祐 委員 (宇都宮青年会議所)

事務局 沼尾 博行 (スポーツ振興課長)
竹内 律 (冒険活動センター所長)
大豆生田 将 (冒険活動センター副所長)
塚原 和哉 (冒険活動センター指導主事)
坂野 忠 (冒険活動センター指導主事)

1 開 会

2 教育委員会あいさつ

3 委員紹介

4 役員選出 (会長 西委員, 副会長 中山委員)

5 議 題

(1) 報告事項

平成 12 年度事業報告について

(事務局)《資料 1 (1)「利用状況」 資料 1 (2)「平成 12 年度学校利用計画・主催事業計画」資料(3)「平成 12 年度主催事業一覧」に基づいて説明。》

(議 長) これだけ大勢の利用があつて、大きな事故などはなかったのか。

(事務局) 各団体の持ち込み車両で病院に連れて行ったということはあるが、

大きな事故はない。

(議 長) 安全面に優れているといえるか。

(事務局) 活動そのものでの大きな事故はない。職員たちの安全面に対する配慮に裏打ちされているといえると思う。

平成 13 年度事業計画について

(事務局) 《資料 2 (1) 「平成 13 年度学校利用計画・主催事業計画」 資料 2 (2) 「平成 13 年度主催事業一覧」に基づいて説明。》

(議 長) 今年の学校利用はすでに決まっているのか。

(事務局) 市内小・中学校長の代表からなる利用調整委員会で審議の上、決定するのですでに決まっている。

(益田委員) 今回の冒険キャンプの参加費はどのくらいかかるのか？

(事務局) 5,500 円である。

(益田委員) 参加募集の広告は学校関係に流すのか？

(事務局) 今回は小学生対象なので市立 59 校の他にも附属や私立の小学校にも案内を流した。さらに、広報「うつのみや」やホームページにも掲載している。

(坂本委員) 定員の 50 名よりも参加が多いようだが...

(事務局) 今回 200 名を超える応募があり、グルーピング上の都合や複数での申し込み、キャンセルの見込みなどのため定員より多くなった。おかげさまで、一般公募の事業はほぼ定員を超えて応募いただいている。ただ、おとなを対象としたエンジョイキャンプだけがここ数年増えてきてはいるものの、定員割れしている。

(議 長) それ以外は定員オーバーしているのか？

(事務局) 2 ~ 3 倍といった状況である。

(渡辺委員) 利用者のための研修会が 6 月にあるが、夏休みに子ども会で利用するには間に合わない。もう少し早めにできないか。

(事務局) 団体によって研修会の位置づけが実技なのか計画なのかと異なる。新しい役員が 4 月に決まるので、そのあと早めに広報を流したい。期日を決めて実施しているが、どんな活動ができるのか個別に相談したい場合には随時相談にのっている。

(渡辺委員) 役員改選の時期によっては、夏休みの活動に備えるには時期が遅いかとも思う。

(議 長) 時期の変更は可能なのか。

(事務局) いろいろな絡みがあるが、一度見直そうかと思う。アンケートからは、概ねこの時期でよいという結果が出ている。

(議 長) 希望する時期によって、分けて開催することはできないのか。

(事務局) プログラムの紹介を分けて実施することも考えられる。

(議 長) 希望があればそれに沿って考えていきたい。計画を立てるために早
めに実施するというこも考えられる。

その他(補助金廃止)

(事務局)《運営協議会補助金の廃止について説明》

(議 長) どこが負担するかが変わったのか。

(事務局) 学校からの申請書により指定の口座に振り込んでいたが、市が直接
レストランに支払うことになり、事務も簡素化された。

(議 長) 予算が削られたわけではないのか。

(事務局) 一部諸経費の額は削られた。

(2) 協議事項

会議の公開について

(事務局)《資料3「会議の公開について」に基づいて説明。》

(議 長) 公開してよろしいか。

(全 員) 賛成。

(事務局) 傍聴希望者は傍聴要領を遵守の上、会議を乱さないことが条件とな
る。また、会議の議事録を作成し、これも閲覧できるようになる。

これからの冒険活動センター事業のあり方について

ア 事業の現状と見直しについて

(事務局)《OHC及び資料「これからの冒険活動センター事業のありかたにつ
いて考える」に基づいて説明。》

(議 長) センターの現状について希望や意見はないか

(渡辺委員) 宿泊費、利用料について聞きたい。

(事務局)《宿泊料及び利用料について説明》

(渡辺委員) 少ない予算の中で子どもたちに体験させようとする、宿泊料金は
しかたないとしても炊飯用具10名用で1,400円は高くないか。

(事務局) 受益者負担という、利益を受ける方にそれなりの負担をしていただ
こうという考えがあり減額は難しい。活動の面では手伝えるが...

(渡辺委員) 人数によっては、登山ができない時には炊飯を考えたい。他の施設
では子ども会になると料金を配慮してもらえるのだが...

(事務局) この施設は少年自然の家等と比べると性格等異なる点がある。一般
の方が自由に泊まり、他人に迷惑をかけなければ酒を飲むこともで
きるほどオープンである。ホテルや旅館のように制約がない代わり
に料金は若干高くなってしまう。

(渡辺委員) 利用したい方はたくさんいるが、料金が高くて他の施設に行ってし
まうことがある。料金面がネックになっているようだ。

(事務局) 学校利用は無料だが、一般利用の場合は一律に頂いている。

- (渡辺委員) 雨の場合はどんな活動場所を使うことが多いのか。
- (事務局) 会議室 , アリーナ , 工作室と炊飯場で , 炊飯場は利用料金がかからない。炊飯場でゲームをする団体もある。アリーナは緊急避難場としても使われる。
- (益田委員) 何回か利用しているが , 船生街道入り口に夢のある明るい感じの看板がほしい。所要時間もあるとうれしい。
- (議 長) 案内標識だが , 可能か。
- (所 長) 難しい点がある。国道 119 号も県道船生街道も管轄は同じ宇都宮土木事務所なのだが , 原則として看板は一か所しか認めていない。駐車場前に大きな看板があるので , その他の設置は難しい。国道に小さい看板は出しているが , 日光街道は環境にも配慮しないといけない。考え方が変わったかもしれないので県にもう一度聞いてみたい。
- (阿久津委員) 規制は榊里までなので , その先に手前何 km という看板は可能だろう。あと開設 6 年が経ち , スギやヒノキの林も暗くなってきた。間伐して明るい感じにしたい。
- (議 長) 確かに看板は葉で隠れて見にくいこともある。ここを意識しない人にもわかる看板があると宣伝効果もあるだろう。
- (事務局) 日光街道沿いではないが , 冒険活動センターの看板はある。周りに塀が立ち , 見にくくなった。今の意見を参考に県と相談したい。
- (議 長) 木や林を伐採することは可能か。
- (事務局) 可能だ。宇都宮市の森林組合に委託しているので , どの程度間伐できるか相談して決めたい。
- (益田委員) 活動した子どもたちの記念に , センターにふさわしい木を用意し , 植樹するのはどうか。
- (三村委員) 学校や公園等でも後の始末が大変なので , 植樹はしない方向になってきている。
- (坂本委員) 自然保護団体からも , 植生が変わってしまうのでここにはない植物を持ってきて植えるのはやめてほしいといわれている。
- (益田委員) ここには小鳥は多いか。
- (事務局) 多い。確かに小鳥や動物には雑木のほうがいいので , 自然保護団体からも許しを得て , 木を植えたこともある。ただ , 下が岩盤なので , なかなか木が根付かない。植樹はどうかと思う。
- (新村委員) 間伐の話が出たが , 単なる間伐ではなく , 木を切るなどのプログラムを創ってはどうか。なかなかできるものではない。
- (事務局) 市の農林振興課でそのような事業を計画しているようだ。子どもたちに森林の中で間伐したり , 木を切ったりという体験をさせるそうだ。冒険活動センターでやりたいという考えもあると聞いている。

- (議長) そういう活動を考えていく材料にはなる。
- (三村委員) 子どもセンターの話が出たが、センターは7月16日に中央公民館内に開設された。PTA連合会と市子連が実際の運営にあっているが、情報誌の発行を予定している。今はまだ市のホームページからインターネットで引き出すことしかできないが、子どもセンターとの関わりの中で、情報を見て子どもたちがここにきてくれる状況をつくっていく必要がある。それを受け入れるうつわ、たとえば日帰りの行事とか子どもたちだけでできても大丈夫な活動とかを考えてほしい。インターネットも今は情報誌がそのまま出てくるだけだが、子どもセンターの活動を紹介していきたい。自然とのふれあいを重視したいので、情報を交換しながらやっていきたい。子どもは同年代に教えてもらうのがいいので、指導者としては、ULCで研修を積んだボランティアの中高生を考えている。こんな形を受け入れる体制はできるか伺いたい。
- (事務局) 主催事業として構えたものだけでなく、ちょっと来ただけの方に情報を提供するとか、ここの遊び方を教えるなどの体制の必要を感じ、徐々に変えつつある。
- (議長) 学校週五日制の完全実施の関連で、今までは学校の教育課程内での利用を対象にしていたが、これからは教育課程を離れた子どもたちが、親の目の届かない時間をどう過ごすかということ念頭において、子どもセンターと冒険活動センターがやり方やあり方について話し合う機会を設けてはどうだろう。
- (三村委員) 子どもセンターを冒険活動センターにつくろうという話もあったが、小学生も来るので中央公民館に落ち着いたいきさつがある。
- (議長) これからの大きな課題となると思われる。
- (事務局) 今のところボランティアのリーダーはいないが、発掘育成について考えていきたい。
- (古賀委員) 利用者の声に良い点と悪い点が出ているが、センターの答えや考えを表明することも大切ではないか。子どもには子ども向けに指導者には指導者向けに少しずつでもいいから掲示しておいて、センターの方針というものを理解してもらうとよい。
- (事務局) PR不足を感じる。利用者のための研修会を通してこの公園のできた目的や考え方を説明し、また、団体には予約時に不便をかける可能性を説明しているが、一般客までにはなかなか伝わらない。
- (三村委員) 冒険活動センターのホームページで情報を流していけばいい。市のホームページから入るとしても、市は力を入れているし、インターネット人口も増えているので、質問コーナーなども有効だろう。

- (古賀委員)できるだけ簡単な方法で、子どもに直接目につくように伝えと、ここはこういうところなんだと分かってもらえる。
- (事務局)特に夏になると、オートキャンプ場と間違えて来る人がいる。荷物をテントのすぐそばまで運びたがる。
- (議長)思い違いをして来た人にも、来たからにはこういうことであると理解してもらえるように書いてあるといい。
- (事務局)また、キャッチフレーズのように短く、わかりやすい表現を考えたい。
- (三村委員)水洗トイレや風呂、電源を備えたオートキャンプ場が多い中、自然体験を重視した点を逆にPRできる。
- (古賀委員)これは規制的な意味をもたせず、利用者の声に対する答えという形で、一か月ごとに変わっていったいいと思う。初めからペンキで書いて消えないというものでは規制的で良くない。
- (新村委員)冒険活動センターはプログラムを提供することが目的ではない。プログラムは大切なものや理念を伝えるために提供するという姿勢が大切である。できれば、開発したプログラムが、具体的にどのような効果があったかという評価を研究してほしい。こういう施設でないと野外活動の教育的効果を研究することはできないと思われる。
- (渡辺委員)子ども会対象の研修会を、新メンバーが決まる3月ころにやってほしい。新メンバーになって新年度の行事を考える際に有効である。
- (事務局)他の方にも聞いてみる。確かに6月がいいかどうかという意見はあると思う。
- (渡辺委員)子ども会だけの研修会でもいいのでお願いしたい。
- (議長)検討いただくということによろしいか。他になければ冒険キャンプを実施中なので、実際の活動の様子を見学しよう。

6 冒険キャンプ視察

活動内容	基地作り
対 象	小学校4年生～6年生(63人参加)

7 閉 会